

今週（6月8日から6月12日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週は9日に新型コロナ対策関連費の払いがあったものの、8日にTB3M物の発行超過、10日に6M物発行、12日に源泉所得税揚げ、交付税借入超過、流動性供給発行などの不足要因があった一方で、新型コロナ支援オペや短国買入オペ等が行われたため、日銀当座預金残高は週を通して増加基調となり、414兆円から420兆円へと増加した。積みの終盤に差し掛かったことで、都銀・信託業態に加えて、地銀業態からも資金調達ニーズが強まったため、週初8日に▲0.06%前後であった出合いの中心レートも9日▲0.05%、10日▲0.04%、11日▲0.03%と日を追うごとに1BP程度上昇する展開となった。無担保コールO/N物の加重平均レートも、日を追うごとに上昇し、12日には▲0.023%まで上昇した。ターム物に関しては、1~2Wのショートターム物で▲0.06~▲0.03%近辺の散発的な出合いが見られた程度であった。

固定金利方式による共通担保資金供給オペは12日に2W物・20,000億円がオファーされ、2,250億円（期落ち額3,961億円）と札割れとなった。その他、9日には、新型コロナ対応金融支援オペが3M物でオファーされ、15,631億円の貸付が行われた。同オペの残高は10日時点で159,536億円となる見込みである。

●レポ市場

今週のO/N GCは、▲0.080~▲0.020%のレンジでの取引となった。週を通して、業者、投資家ともに資金調達意欲は厚く、売り物はしっかりの展開であった。

SCは個別銘柄では2Y410~413、5Y139~143、10Y336~358、20Y164~172、30Y59~65、40Y11~13など、カレント銘柄近辺や、チーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、増発により需給が徐々に悪化していることから、3M物は▲0.110~▲0.108%出合いと、やや軟調に推移した。一方で、オペ期待などから、6M物は▲0.205~▲0.190%、1Y物は▲0.201%出合いと、堅調な推移となった。9日に実施された6M物の入札は、WI取引において▲0.160%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1753%、按分落札利回▲0.1733%と、しっかりした結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、▲0.200%出合いと堅調な推移となった。

11日に実施された短国買入オペは、前回と同額の3兆円でオファーされ、平均落札利回較差+0.004%、按分落札利回較差▲0.002%と、しっかりした結果となった。

12日に実施されている3M物の入札は、WI取引において▲0.101~▲0.100%での出合いが見られる中、平均落札利回▲0.1018%、按分落札利回▲0.0982%と、無難な結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、海外勢からの買いがしっかりと入り、▲0.12%まで低下した。

●CP市場

今週のCP市場は、陸運や電気機器業態で1,000億円を超える大型案件がみられた他、石油・石炭や小売、建設業態でもまとまった額の発行が見られ、週間発行総額は7,600億円程度と、償還総額7,100億円程度を上回った。市場発行残高は、先週に引き続き伸長し、11日に24兆8,556億円に達するなど、3月中旬以来の高水準となっている。発行レートについては、発行残高は拡大しているものの、CP等買入オペ見合いのニーズからか、オペの対象となる銘柄については大部分が若干のマイナス圏~0%と低位で推移している。特に発行残高の少ない希少銘柄に関してはマイナス圏でレートを深堀する動きも見られた。

12日にはCP等買入オペが、6,000億円がオファーされた。結果は、平均落札レート▲0.006%、按分落札レート▲0.010%と、前回（平均▲0.005%、按分▲0.017%）比で按分レートがさらに上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (円/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
6/8 (月)	23,178.10	0.040	109.46	△ 0.055	△ 0.083	4,140,200
6/9 (火)	23,091.03	0.015	108.10	△ 0.048	△ 0.062	4,154,700
6/10 (水)	23,124.95	0.020	107.50	△ 0.038	△ 0.055	4,156,800
6/11 (木)	22,472.91	0.005	106.90	△ 0.031	△ 0.072	4,166,100
6/12 (金)	22,305.48	0.010	106.85	△ 0.023	△ 0.054	4,199,700

来週（6月15日から6月19日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定		海外主要経済指標
6/15 (月)	日銀政策委・金融政策決定会合(1日目 14:00~) 4月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30) 4月の石油等消費動向統計(経済産業省 13:30)	TB6M 28,000億円 6/16発行	流動性供給 5,000億円 6/16発行	
6/16 (火)	日銀政策委・金融政策決定会合(2日目 9:00~) 日銀総裁定例会見(15:30)			4月の米企業在庫 5月の米小売売上高 5月の米鉱工業生産・設備稼働率
6/17 (水)	5月の貿易統計(財務省 8:50)			5月の米住宅着工件数 5月のユーロ圏消費者物価指数改定値 5月の英消費者物価指数
6/18 (木)	月例経済報告(内閣府)	TB1Y 30,000億円 6/22発行	5Y 19,000億円 6/19発行	英中銀MPC結果発表
6/19 (金)	金融政策決定会合議事要旨(4月27日分 8:50) 金融政策決定会合議事要旨(5月22日分 8:50) 5月の全国消費者物価指数(CPI 総務省 8:30)	TB3M 81,400億円 6/22発行		

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
6/15 (月)	▲ 100	22,900	22,800	国債買入 全店共通 CP買入 社債買入 国債補完		7,000 ▲ 4,000 ▲ 500 3,000 300	8,100	30,900	年金定時払い TB3M発行▲91400償還47100 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲700 個人向け3Y償還400
6/16 (火)	0	▲ 33,000	▲ 33,000				0	▲ 33,000	TB6M発行▲28000 流動性供給▲5000
6/17 (水)	▲ 1,000	1,000	0	CP買入		6,000	6,000	6,000	
6/18 (木)	▲ 1,000	2,000	1,000				0	1,000	
6/19 (金)	▲ 1,000	▲ 23,000	▲ 24,000	貸出増加支援 国債売現先(米ドル)	▲ 62,000 84,500		22,500	▲ 1,500	5Y発行▲19000 交付税借入▲21000期日10500
週間合計	▲ 3,100	▲ 30,100	▲ 33,200	—	18,300	18,300	36,600	3,400	

6/15は日銀予想、6/16以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、余剰要因は15日の年金定時払いがあるのみで、全体的に資金不足要因が多い。16日からは新しい積み期となり、基準比率が28.5%（5月積み期30.0%）に引き下げられる。無担保O/N加重平均レートは一旦低下すると予想される。米ドル供給用売現先オペや貸出増加支援オペ等の動向も注目したい。レポ市場は、積み期間が切り替わるものの、短国増発による業者の資金調達意欲は継続すると見られることから、GC T/Nは▲0.110～▲0.050%のレンジでの推移を予想する。短国市場は、15日に6M物、18日に1Y物、19日に3M物の入札が実施予定となっている。短国の増発が続く中、レート水準や短国買入オペのオファー額等、市場動向が注目される。CP市場は、オペの按分レート上昇が、発行レートにどのように影響するか注目される。

主要なイベントとしては、国内では15～16日に日銀金融政策決定会合、19日に5月の全国消費者物価指数、海外では17日に5月のユーロ圏消費者物価指数改定値と5月の英消費物価指数、18日に英中銀MPC結果発表、などが予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。

◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入